

令和5年度 幼小中一貫教育の取組み

非認知能力で結びつけた未来へ向かう学びの可能性



太子町教育委員会
太子町幼小中一貫教育推進委員会

非認知能力を引き出し、
一人ひとりの可能性を広げる

太子町の幼小中一貫教育

太子町では、子どもたちの「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育み、個々の可能性を最大限に伸ばすため、幼稚園から中学校までの学びと成長を連続的に結びつけた幼小中一貫教育を進めています。

幼小中一貫教育を推進するうえで、今後加速する社会の変化に対応する力として「非認知能力」に注目しています。「非認知能力」をテーマとした取り組みは、本町における教育活動の中心に位置づけております。私たちは、子どもたちの可能性を最大限に引き出すため、確かな学力だけでなく、豊かな心と健やかな体を育みながら、「非認知能力」をバックボーンとして教育を実践します。

「めざす子ども像」

「幼小中のつながりをもとに
豊かな人生とより良い社会を主体的につくるため
自ら考え、うごき、相手を大切にできる人」

令和4年8月に開催した研修で太子町立幼小中学校園のすべての先生が、太子の子どもの良いところ・課題・義務教育でつきたい力(教職員のねがい)、そしてこれまでの教育実践で大切にされてきた「非認知能力」について考えました。それを分析し、幼小中一貫教育で育む「子ども像」「太子町で育む非認知能力」としてまとめました。

幼小中12年間の学校園の生活を通して非認知能力を伸ばすために 新キャリアパスポートとカリキュラムマネジメントシートを導入

太子町立学校園では、非認知能力を育むために、単に教えるだけではなく、学校園生活全体に渡って意識的な取り組みを行っています。適切な環境設定と教職員の「見取り」の専門性向上・チームによる取り組みに努めています。

学校園が培ってきた伝統を尊重しながら、新たな取り組みを積極的に取り入れています。キャリアパスポートを通して子どもが非認知能力を自覚し、意識ができるようにしています。また、教職員がバラバラでつきたい力をつけるのではなく、教職員が一体となりカリキュラムマネジメントの視点から「見える化シート(カリキュラムマネジメントシート)」を作成し、幼小中の12年間を通して非認知能力の伸長ができるようにしています。

行事を通して

遊びを通して

生徒会活動を通して

出会いを通して

授業を通して

子どもの非認知能力を磨き・伸ばす

幼小中の教職員で考えた学校園で大切にしたい共通の視点

子どもを主語に

・子どもが安心して自分を表現できる ・子どもが成長を実感できる ・子どもが自ら学ぶ

幼小中の教職員のつながりと専門性を磨く教職員研修

令和5年夏、太子町立学校園の全教職員が集まって、子どもの権利の観点から「太子の子ども」と関わる大人が学校園で大切にしたい共通の視点について考えました。当日はスクールソーシャルワーカーより、子どもの権利条約の講話があり、その後、子どもと関わる大人が大切にしたい大人の姿をレゴブロックを用いてワークショップ形式で幼小中の教職員でわいわいと交流しながら考えました。



夏季休業中に実施した全教職員対象の研修

子どもを主語にして考えると大人は何ができるのか？

子どもを主語にして考えるとは、例えば「子どもが安心して自分を表現できる」ために、大人の意見の押し付けではなく「子どもの気持ち・意見を尊重する」。「子どもが自身の成長を実感できる」ために、大人は子どもができそうなことは子どもに任せて「子どもの成長を支える」。「子どもが自ら学ぶ」ために、大人は一方的に教え込むのではなく「子どもの学びたいと思うきっかけを作る」。

このように「子どもが安心して自分を表現し、成長を実感でき、広い視野で社会と接し、自分の強みを見つけ、自ら学びたい」というきっかけを作るために、町立学校園の大人が子どもと関わる際の共通の合言葉を「子どもを主語に」としました。

太子町立学校園は「子どもを主語に」して子どもと接し、非認知能力を引き出し、一人ひとりの可能性を広げる幼小中一貫教育に取り組みます。

各学校園の取り組み発信



広報たいし で毎月取り組みを発信

令和5年1月号より、幼小中一貫教育の取り組みを発信しています。バックナンバーなどHPでもご覧いただくことができます。

11.17 教育フォーラム開催

取り組みを振り返り・展望を考える



幼小中一貫教育の実践報告が各学校園からありました。次に「やってみたい子育てへの転換～非認知能力を育む子どもとの接し方～」と題して岡山大学准教授の中山芳一さんから講演会がありました。中山さんから「太子町での非認知能力の育成に向けた取り組みは、非常にしっかりされている」と講評がありました。

当日の様子は幼小中一貫教育のHPにて公開を予定しています。右記の二次元バーコードよりご覧いただくこともできます。

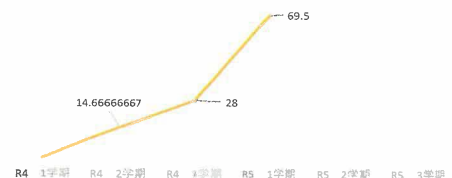


子ども意識調査から見える幼小中一貫教育

子どもの日々の学校園生活に活かすために、太子町では子ども意識調査を毎学期末におこなっています。

約70%の子どもが7つの力を認知！

太子町の小中学校でつきたい7つの力を知っていますか。
〔知っている（強肯定）〕の回答割合平均値



約50%の子どもが伸ばしたい力を意識して学校生活に取り組む！

学校生活を通して伸ばしたい力についての意識を聞いて、意識して伸ばしたいと思う。（強肯定）

51.66666667

非認知能力について意識して学習に取り組んでいる。（強肯定）

46.33333333

今後、子ども・教職員・家庭・地域でつきたい力を共有し、幼小中一貫して非認知能力の伸長を進めます。

一人ひとりの良さが輝く

魅力ある学校づくり

太子町立中学校



▼生徒会活動（学校はMSPを学ぶところ）
▼検討会議について。
▼未来を生きる力を育む生徒主体の授業づくり
▼学び続ける教職員集団を目指して。
▼普段の授業から非認知能力を育むことを意識。

▼生徒指導
▼非認知能力を育む伝統の「業間運動」。
▼一人も見捨てない居心地の良い学校を目指して。

▼学力向上
▼確かな学びを育む取り組み。
▼生活委員会に呼びかけ、勉強の仕方・学校生活の困り感などの疑問に答える「壁新聞」の作成。

▼支援教育
▼自立活動の栽培活動を通して育てる非認知能力。

▼わがまち連絡会
▼学年でつきたい力：見える化シート①の作成。
▼行事でつきたい力：見える化シート②の作成。
▼キャリアパスポートで自己評価・自己認識。

【学校概要】

◆教育課程（学年運営・学級運営・授業・行事・部活動など）のすべてが、学校教育目標につながるように意識をする。

太子町立中学校 学校教育目標
太子の土壌に立ち 未来を見据え
自ら学び 自ら動く生徒
一人ひとりの良さが輝く学校

わがまち

『非認知能力の育成』を軸としたカリキュラムマネジメント（学習効果の最大化）の構築

◆学年でつきたい力…見える化シート①の作成、生徒玄関に掲示。

- ▶何のために学校があるのか？
- ▶どのような学年にしたいのか？
- ▶この1年でどのような力をつけさせたいのか？
- ▶そのためには何を意識して取り組むべきなのか？（新学年がはじまる4月当初に学年教職員、生徒に伝えること）



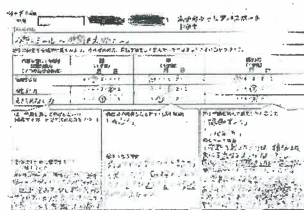
◆行事でつきたい力…見える化シート②の作成、職員室に掲示。

- ▶この行事は何のためにあるのか？
- ▶この行事を通してつけさせたい力は何か？
- ▶そのためには何を意識して取り組むべきなのか？（行事を始める前に生徒に伝えること）



◆キャリアパスポートの作成、各学期、行事での自己評価

- ▶自らの学校生活を見通したり、振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価・自己認識すること。
- ▶個人で伸ばしたい力・つきたい力を決める。（7つの非認知能力より選ぶ）



支援教育（あおば学級）

自立活動「栽培活動」通して育てる非認知能力

- ◆【4月中旬】
どの野菜を育てるかをあおば学級メンバーで協議する。（伝える力、受け入れる力）
- ◆【4月末】
種・苗を自分たちで買いに行く。（協働する力）
- ◆【5月上旬】
耕運機、クワを使って自分たちで畑の土壌、畝づくり、種まき、苗植え。（自分を調整する力、あきらめない力）
- ◆【7月】
野菜の収穫、収穫した野菜を教職員に販売。（協働する力、挑む力）

*あおば学級では、自分の役割を責任をもって果たす力を伸ばすことを目標としています。野菜を育てるという自立活動を通して、一人ひとりの必要な支援につなげています。自立活動を通して、自分の役割を果たすことが、みんなのためになることや、みんなと協力し、達成する喜びを大切にしています。




 子どもを主語に
 非認知能力を引き出し、
 一人ひとりの可能性を広げる
 = 太子町の幼小中一貫教育 =



太子町の幼小中一貫教育の取り組みを HP で発信中
 二次元コードをスマホ・カメラで読み取ることで確認できます▶

「広報たいし」では日々の学校園の取り組みを発信！

太子町の学校で、子どもの成長を支え・関わりたい！

講師募集状況を掲載中！▶▶▶

お気軽に下記連絡先へお電話ください！

お問い合わせ：太子町教育委員会教育総務課 0721 (98) 5533

